令和８年度第２回総合計画市民会議　会議録

１　会 議 名　令和８年度第２回総合計画市民会議

２　開催日時　令和８年10月８日（木）午前10時から午前11時30分まで

３　開催場所　一関市役所　第１会議室Ａ・Ｂ

４　出 席 者

⑴　委　員　浅利真由美委員、阿部利彦委員、宇津野泉委員、及川智彦委員、
小野寺淳委員、小野寺知也委員、佐藤みさ子委員、佐藤萌香委員、
東海林訓委員、菅原健二委員、菅原幸子委員、千葉久美子委員、
千葉憲一委員、千葉理恵委員、沼倉麻友委員、星義弘委員、吉田正弘委員

※欠席者　伊藤拓也委員、北田文人委員、佐藤ゆかり委員

⑵　事務局　飯村昌弘市長公室長、菊川秀樹市長公室次長兼政策企画課長、
菊地絵理子政策企画課政策推進係長、渡辺苑子政策企画課主任主事、
谷藤義拓政策企画課主任主事

５　議　　題

⑴　一関市総合計画後期基本計画（令和３年度～令和７年度)「主な指標」の実績について

⑵　第２期一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和３年度～令和７年度）数値目標の実績について

⑶　一関市総合計画前期基本計画（令和８年度～令和12年度）評価指標の実績について

６　公開、非公開の別　公開

７　傍聴者の数　１人（うち報道機関１人）

８　会長挨拶

新しい体制となり２回目の会議となる。

本日は、令和３年度から令和７年度までの様々な取組について、実績の報告を受け、皆さんの御意見をいただく。

皆さんの仕事に関わる部分などについて忌憚のない御意見をいただきたい。

令和８年度からの一関市総合計画前期基本計画を推進するに当たって、皆さんの意見が様々なところに反映されるものと思うので、よろしくお願いする。

９　議　　題

⑴　一関市総合計画後期基本計画（令和３年度～令和７年度)「主な指標」の実績について

⑵　第２期一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和３年度～令和７年度）数値目

標の実績について

事務局から資料№.１～５に基づき説明を行った。以下質疑応答等。

委　員　一関市の学校教育におけるＩＣＴ活用は他市町村と比べ、本当に進んでいると感じている。教員は他市町村から異動してくるので他市町村と比較することができる。ＩＣＴ活用を進めるとなると莫大な予算がかかるが、積極的に進めていただき、人材育成に繋げていただいていることに感謝申し上げる。

委　員　一関市全体の結果を、達成度を表記してまとめるという方法は良いと思う。しかし、一関市は広いので、項目によっては地域ごとの分析があっても良いと思う。

また、資料№.５の２ページに記載されている№.８「地産地消モデル店認定数」について、達成度がＡとなっているが、認定すれば良いというわけではなく、認定した後の活動のフォローも必要になってくる。

委　員　資料№.５の３ページに記載されている№.22「空き店舗入居数」について、「商店街」とはどこの商店街を指しているのか。

また、同じく資料№.５の２ページに記載されている№.18「起業応援講座受講者からの起業者数」に関して、起業したら終わりではなく、ビジネスとして継続していかないと意味がない。起業した人がどのくらい継続しているのかも示してほしい。

事務局　「商店街」の対象については、確認する。

令和８年度からの新たな総合計画においては「創業３年後の企業の経営継続率」を指標として設定しているところである。

委　員　資料№.４の２ページに記載されている№.２「合計特殊出生率」の目標値1.63はかなり強気の設定だったと思う。どのような根拠があって設定したのかを教えてほしい。

また、同じく資料№.４の２ページ目に記載されている№.（４）「仕事と生活の調和 ▸家事、育児などの役割を夫婦や家庭で協力している割合」の達成度がＤとなっているので詳細を確認したいが、資料№.５のどこを見ればよいか。

事務局　市の総合戦略は、基本的には国や県の総合戦略に紐づけて策定している。当時の国の総合戦略、人口ビジョンでは、将来的に合計特殊出生率が2.07まで回復していくとしていた。市においてもこのビジョンに従い、最終的には2.07又はそれ以上まで出生率が上がっていくという目標とし、現状値1.32に対して令和７年度の目標値を1.63と設定した。

委　員　令和８年度からの一関市総合計画前期基本計画においても、合計特殊出生率

の目標値を設定しているのか。

事務局　合計特殊出生率という数値目標は設定していない。数値としてはないが、ほかの大目標指標などでもって総合的に評価していく。

資料№.５は資料№.４の基本目標ごとに項目を整理している。

事務局　合計特殊出生率について、新たな一関市総合計画前期基本計画と一体的に策定した一関市人口ビジョンにおいては、実情に合わせて、令和５年度実績の1.25を用いて将来展望を推計したところである。

委　員　合計特殊出生率の目標値は設定してないが、1.25を維持するというところを目標としているというニュアンスか。

事務局　目標というよりは、展望としての見通しである。

委　員　県の合計特殊出生率の推移と比べてみると、令和３年までは市の方が高かったが、令和４年に逆転し、県の方が高くなった。令和６年は県全体も下がっているが、それよりも一関市が低くなっているということは、そこに何かの理由がある。

新たな一関市総合計画前期基本計画において、数値目標はなくても合計特殊出生率について評価していくことは必要と考えるので検討いただきたい。

委　員　資料№.４の１ページに記載されている№.（１）「地域経済の強化 ▸納税義務者１人当たりの所得」について、達成度がＡとなっている。最低賃金が上がっているので当然に上がるものと考えるが、これは物価上昇なども加味されて算出したものか。

事務局　物価上昇分などは加味されていないため､実感と異なっている可能性はある。

委　員　達成度Ａとされているのが気になるので、物価上昇分などを加味した評価としたほうがよい。

委　員　公園はこどもが安全・安心に遊ぶことができる場所だと思うが、障がいがあり、自分で自由に遊べないこどもも保護者と一緒に安全に遊ぶことができる公園となっているか。

また、上下水道について、市町村合併前の管が埋設されている場所が多くあると思うが、その入替工事はどのくらい進んでいるのか。

事務局　市内に１か所、インクルーシブ遊具があるが、ほとんどの公園では対応できていないのが現状である。

委　員　ケアが必要なこどもの保護者が、なかなか公園に連れて行けないという現状がある。市全体の子育て支援としてそういったところにも目を向けていただきたい。

事務局　ケアが必要なこどもや保護者への支援という視点は、令和７年度までの計画においても、令和８年度の計画においても盛り込んでいるが、公園の整備というところに結びついていないのが現状である。

上下水道は独立会計となっており、料金収入等により整備を進めているところである。上水道における耐震の機能がある管への架替などは年度計画により進めているところである。

委　員　図書館の利用者の割合が順調に増えているのに対して、博物館の入館者数が減少しているのが気になる。普段活動している中で、図書館の方と一緒に企画をすることは多いが、博物館とあまり一緒に活動したことがない。印象として外部とのコラボレーションがあまりないように思うので、地域おこし協力隊や民間企業の方たちと連携が取れやすいシステムができるとよいのではないか。

委　員　一関市総合計画後期基本計画について、全体的に言うと達成度Ａ、Ｂが多く、達成状況としては非常に良いと思う。指標の一覧を見ても、進捗度Ｃで推移していたものがＡに上がるなど改善が見られている。進捗度Ｃが最後まで続いているものもあるが、それは新しい計画の中で取り組んでいけばよいと思う。

委　員　野菜や花きの作付面積、和牛子牛出荷頭数の減少が続いているがどのように対策を講じていくのか。

事務局　減少の理由として担当課が分析しているのは、やはり高齢化や担い手不足である。生産者が減少することで、作付面積や出荷頭数が減ってしまうので、新規就農者への支援制度を充実し、担い手を確保していきたいと考えている。

委　員　農地の宅地化が進んでいるように見受けられるので、作付面積は減っていくのではないか。

事務局　農地が宅地化されているという面もあるが、それよりも遊休農地のほうが圧倒的に多いので、担い手確保の取組を進め、作付面積を拡大していきたいと考えている。

⑶　一関市総合計画前期基本計画（令和８年度～令和12年度）評価指標の実績について事務局から資料№.６、７に基づき説明を行った。質疑応答等なし。

10　担 当 課　市長公室政策企画課